



写真左よりの白っぽい幹の木が本稿のイチヨウ



左より1人目が徳富蘇峰、3人目が牧野虎次元総長
(1952年5月22日香里中高前庭にて撮影)

イ

チ

ヨ

ウ

蘇峰手植えのイチヨウの木

喜多 正明

(香里中学・高等学校教諭)

香里中高の前庭正面に「良心の碑」がある。「良心の碑」の左後方に一本のイチヨウの木がある。これが蘇峰手植えのイチヨウの木である。同志社香里第四代校長大橋寛政先生は本校PTA会誌『香里の丘』第五十六号に「蘇峰は昭和二十七年に本校を訪れている。九十歳の時である。その来校記念としてイチヨウの苗木を植樹されたが、間もなく枯れたので、塩見幸太郎氏が直ちにそれと同型のものを植えて育てられた。その植えられた場所が今の尚志館と明誠館との間であつたため、渡り廊下建設のために、「良心の碑」の左側に移植された。今は人間の背丈よりも高くなり、秋になると、ひっそりと、しかし美しく黄葉してくるようになった。この事情を知っているものは、塩見

さんすでに亡く、移植してくださった寺本実さんくらいのものであろう。「学校は今のうちに蘇峰翁記念の植樹であることを標示しておいてほしいと思う」と記しておられる。大橋先生が心配されたとおり、今は蘇峰翁の来校すら知っている人は少なくなっている。幸いにも事務所の喜多長宏さんがイチヨウの木を知っておられた。早速標示をお願いした。生物の先生に聞いたところでは、「今までは背後の木の下に蔭になっていたが、漸く日光を受けるようになったので、これからは成長が早いでしょう」とのことであつた。今後は重みを感じる新島先生の「良心の碑」とその左後方に待立する蘇峰植樹の「イチヨウの木」を組み合わせて、生徒の教育に役立てたい。